

2 まちづくりの目標

神宮外苑地区は、大正15（1926）年の明治神宮外苑の創建以来、4列のいちよう並木から聖徳記念絵画館を臨む象徴的で風格のある景観や、昭和39（1964）年の東京オリンピックの記憶などとともに、国民に開かれた緑とスポーツの拠点としての歴史を積み重ねている。

国立競技場の建替えを契機として、今後も連続的に進められるまちづくりにおいても、この緑とスポーツの両面において培われてきた歴史を尊重するとともに、それを他地区にない個性として活用することが重要である。

また、スポーツ拠点として発展してきた神宮外苑の歴史・文化に、多くの人々が触れる機会をつくることで、歴史を継承するとともに、新たな文化として発展させていくべきであり、そのためには、多様な人々をひきつける魅力的なまちとすることが必要である。

東京2020大会に向けて、先行するまちづくりとも連携し、神宮外苑地区をにぎわい溢れる緑豊かなスポーツの拠点として更に発展させていくため、目指すべき将来像として、以下の3つの拠点性を備えたまちの実現を図ることを、まちづくりの目標とする。

将来像 1 高揚感のあるスポーツとアクティビティの拠点

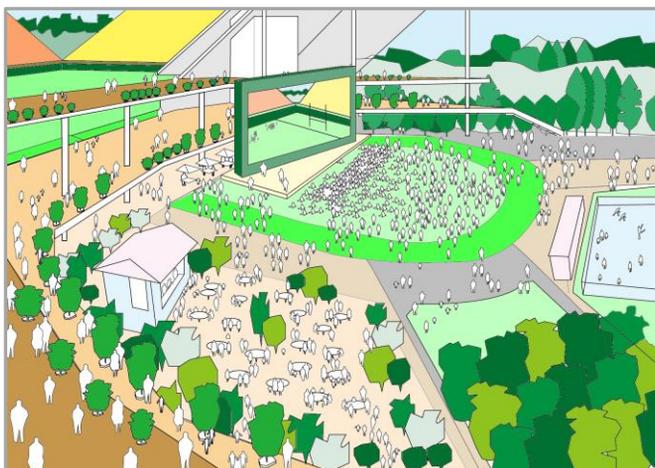
将来像 2 歴史ある個性を生かした多様なみどりと交流の拠点

将来像 3 地域特性を生かした魅力的な文化とにぎわいの拠点

将来像 1 高揚感のあるスポーツとアクティビティの拠点

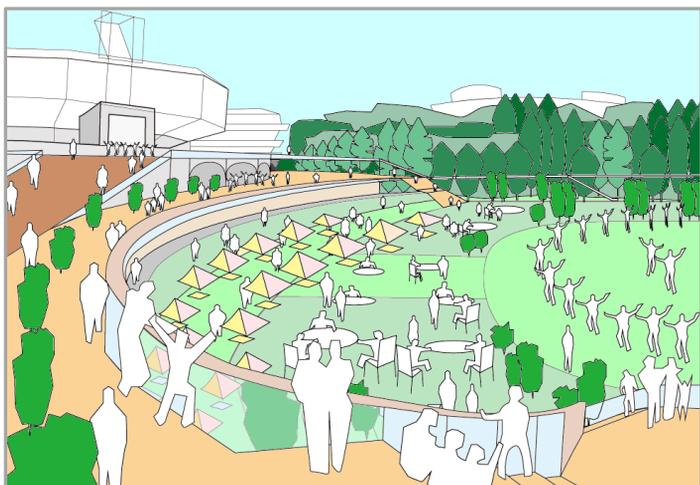
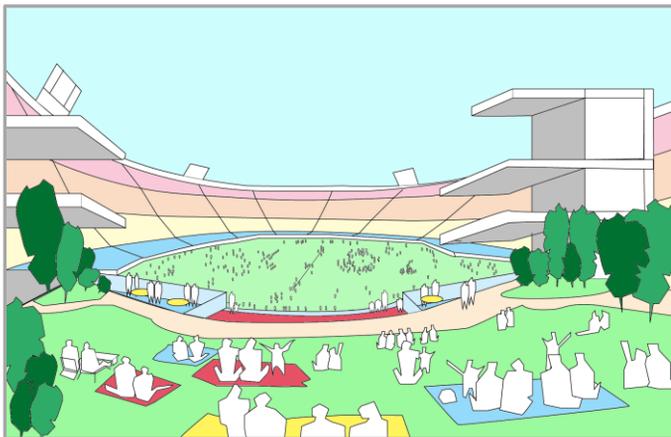
- ◆ 競技者・来訪者にとって魅力的で、試合のない日でも人を呼び込むことができ、地区のまちづくりの中核を担えるような施設が整備されている。
- ◆ 身近なスポーツやレクリエーション、交流など多様な目的に利用可能な大小の広場空間が確保されている。

《将来イメージ》



- 大広場では、普段から人々が、一人でも、グループでも、誰とでも、自由に憩い、遊ぶ空間として楽しみ、神宮外苑地区でのビッグイベント時には、大広場でパブリック・ビューイングが行われ、会場内外を通して臨場感溢れる空間として、多くの人たちがスポーツの高揚感を共有し、楽しんでいる。
- 広場と施設が一体的に利用され、季節を感じられる多目的なイベント（フードイベント、ピアガーデンなど）が定期的開催され、四季折々にぎわいやアクティビティが生まれている。
- 地区内の関係者が連携し、広場等を活用して、スポーツ文化の発信・育成に資するイベントが行われている。

- 新たに整備される大規模スポーツ施設は、世界的な先進事例がそうであるように、スポーツの環境として優れているだけでなく、試合やイベントのない時も人々が訪れ、憩い、交流できる多様な魅力を備えた施設となっている。

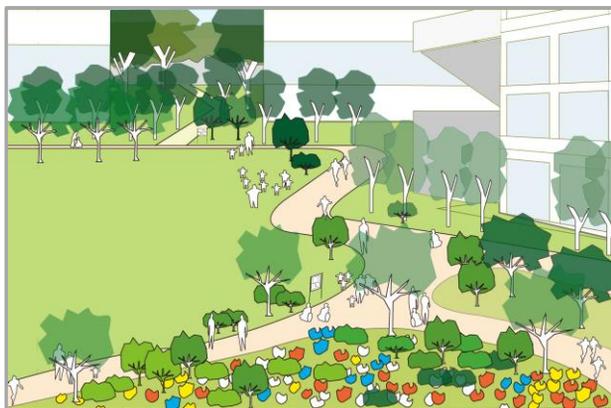


- 競技場へ向かう途中、デッキ上から広場のイベントやにぎわいを見て「あそこにも行ってみよう！」と感じた人々が、新たな目的地への回遊を楽しんでいる。
- 来訪者は、デッキと大広場をつなぐ階段から、大広場でのイベントを見て声援を送っている。
- 広場からデッキ上のスポーツ観戦で盛り上がった人々の波を見て、スポーツ観戦への好奇心が湧いている。
- 高低差等を活用した広場空間では、見る・見られるの関係が、楽しさを一層盛り上げている。

将来像 2 歴史ある個性を生かした多様なみどりと交流の拠点

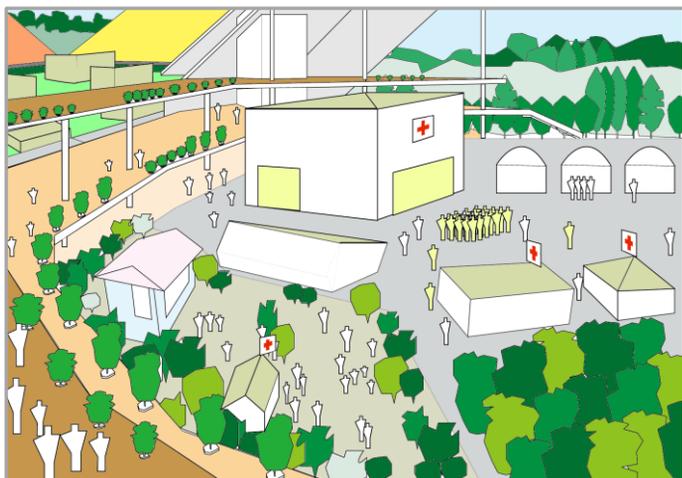
- ◆ 広場や歩行者空間とみどりとが連携し、自然に親しみ、憩い、集える、多様な交流空間が確保されている。
- ◆ 聖徳記念絵画館・いちょう並木などの歴史・文化資源や大規模スポーツ施設群など、地域の個性・特色を生かした景観が形成されている。
- ◆ 周辺のまちも含め、多くの来訪者を集める地区の広域避難場所として、災害時に人々が避難・滞留できる空間・機能が確保されている。

《将来イメージ》



- 大規模スポーツ施設をはじめとした各施設間のバリアフリーに配慮された歩行者通路では、分かりやすい統一されたサインにより、歩行者や車いす利用者等が円滑かつ自由に移動している。
- 歴史的なみどりと新たなみどりがメリハリのある多様なみどり空間を生み出し、自然と親しみながら、憩い、たたずめる場となっている。
- 施設間を縫うように整備された散策路では、散策だけでなく、ジョギングなどを楽しむこともできる。

- いちょう並木から聖徳記念絵画館を臨む風格ある象徴的な景観が保全されながら、並木と緑道、道路の三位一体の雰囲気の中で人々が憩い、交流を楽しんでいる。
- 沿道では、みどりと調和したレストランやオープンカフェなどで人々が憩い、緑道では、人々は落ち着いた雰囲気を味わいながら散策している。

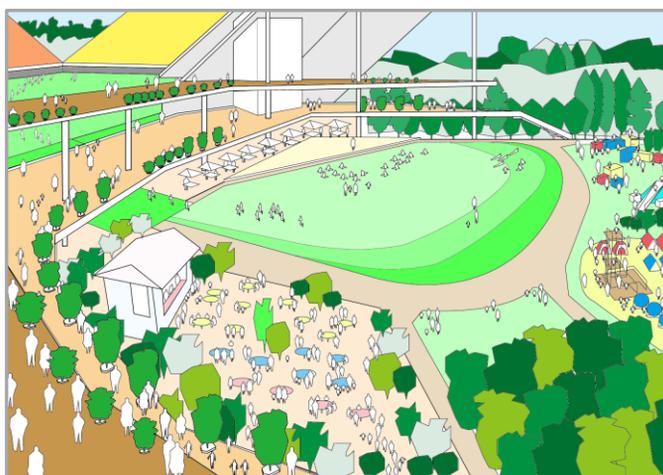


- 災害時には、大広場が避難・滞留の拠点となり、その他の広場空間や各施設でも、エリアマネジメント団体等が帰宅困難者や地域の人々の対応に取り組んでいる。

将来像 3 地域特性を生かした魅力的な文化とにぎわいの拠点

- ◆ スポーツ施設と相互に関連し合い、魅力を向上させる文化・交流・商業等のにぎわい機能が導入されている。
- ◆ 青山通りやスタジアム通りの沿道の魅力や都心立地等の特性を生かした機能の導入とともに、地区全体でにぎわいや憩いなどの多様な魅力が連担する空間が形成されている。
- ◆ 観客や来訪者が安全・円滑・快適に移動できる歩行者空間や、鉄道駅からの質の高い導入空間が確保されている。

《将来イメージ》



- デッキ上や広場では、イベントや身近なスポーツ等が行われ、相互の見る・見られるの関係の中で、誰もが楽しみ、スポーツに親しむ環境を感じている。
- 大規模スポーツ施設の周囲には、スポーツ関連ショップ群やスポーツミュージアムなどが整備され、スポーツの歴史を学ぶなど、文化的な交流によるにぎわいの空間ができています。
- 広場の空間では、周辺施設と連携したミニイベントなどが繰り広げられ、子供から大人まで、憩い、遊び、交流できる、楽しい雰囲気を醸し出している。



- スタジアム通りでは、多くの来街者が行き交い、沿道のショップや様々なイベント情報により、地区内に引き込まれている。
- 青山通り沿いでは、業務・商業・交流等の多様な機能が集積し、人々が魅力的なにぎわいを楽しんでいる。